

# 信州ワイド

## 「中国帰国者の長い旅」

### 阿智村 井出孫六さんが講演

阿智村公民館は24日、「満蒙開拓平和記念館」の建設へ向けた平和学習会をすべしと題して、阿智村公民館を会場に、阿智村で残留孤児の父「故山本慈昭」ゆかりの地として満蒙開拓平和記念館の建設に向けて準備を進めている。同

阿智村では残留孤児の父「故山本慈昭」ゆかりの地として満蒙開拓平和記念館の建設に向けて準備を進めている。同

阿智村公民館は24日、「満蒙開拓平和記念館」の建設へ向けた平和学習会をすべしと題して、阿智村公民館を会場に、阿智村で残留孤児の父「故山本慈昭」ゆかりの地として満蒙開拓平和記念館の建設に向けて準備を進めている。同

変が起った。国内の行き詰まりを外へ向けて解決しようと始まったのでは」と語った。

内閣が発足。5カ年計画で第1次武装移民が派遣され、現地住民の抵抗を受けにくつか失敗しながら入植していった。

36年に2・26事件で高橋是清が暗殺され、広田内閣となる

と100万戸500万人の第2次移民計画が始まった。県内では大日向村がモデル例として700戸のうち300戸が分村移民。その後、泰阜村など下伊那が続いたが「大日向はモデルケースで良いと

ころだったが、だんだんとソ連国境に近いほうへ移住させられた」という。

当時、関東軍参謀を務めた人に満蒙開拓の戦略的意義について井出さんが訪ねたところ「対ソ戦

えが返ってきた。関東軍の役割は満州鉄道、都市、工業地帯、国境の守備。特に国境守備は、開拓民を入れることで道

路も水などのインフラ整備が進み、インフラは即時軍事転用



満蒙開拓を語る井出さん

可能なものとしてつくられた。開拓民は十字が窓口となって朝鮮戦争で断絶、赤

て48年まで続いたが

53年に再会されたが

58年に日中国交断絶で帰国が全面停止になったことなど、国の動向を交えて語り、

残留孤児の受難の時代を振り返った。

このほか、戦後の引き揚げ事業について

## 満蒙開拓団の歴史振り返る

### 井出孫六さん講演会

### 阿智

下伊那郡阿智村公民館は24日、佐久市出身の作家、井出孫六さんを講師に、「中国帰国者の長い旅」と題して満蒙開拓団

の歴史を振り返る講演会を村コミュニティ館で開いた。井出さんは、村内に来年開館予定の満蒙開拓平和記念館」の事業準備会名誉顧問を務めており、旧満州(中国東北部)への移民計画の概要や残留孤児の帰国問題など



を丁寧に解説した。

同公民館が毎年度3回開いている平和学習会の本年度最終回。都道府県別で最多の開拓団員を送り出した県内だが、井出さんは「泰阜村など下伊那郡の入植者たちは、ソ満国境の厳しい環境の地に移民したと紹介。一(戦後)旧満州に取り残された1方人近い人々の帰国に、熱心に取り組んだのが阿智村の人々だった」と話した。

井出さんは約1時間半の講演を「中国残留孤児の人々は長い間、自国に帰る権利を奪われた。すべての人が故郷に帰れる社会になってほしい」と締めくくった。じつと耳を傾けていた同村駒場の自営業、奥山広さん(78)は「日本はもっと本気になって帰国事業に尽力しないと」と話していた。

H.22.1.25 信濃毎日新聞